

のうきよう まがしづ

知
心

中標津町豊岡 白築政博氏撮影

'98 **1** No.277

のうきよう ちがべつ

初春を迎えは月々様のご多幸と
ご繁栄をお祈り致します
平成十年 元旦



もくじ

- 3~8 — 年頭のごあいさつ
- 8~9 — 寅年生まれの仲間大集合
- 10 ——— 〈組合長日誌〉
アメリカ農業を視察して③
- 11 ——— 〈わが家の人気者〉
ごはんが大好きなわんぱくっ子
豊岡地区 武田冬馬くん(3歳)
- 12 ——— 家畜糞尿処理など
環境保全に関する勉強会
- 13 ——— 〈中標津乳牛改良同志会〉
将来目標をはっきりさせ、
一步一步確実な改良を
- 14 ——— 全道JA青年部大会
- 15 ——— 理事会の経過
- 16~17 — 今月のフォトアルバム
- 18 ——— 12月の組合日誌

新春も寿を
 謹んでお慶びを

申す

申す

皆様様の御健康と御多幸を
 心からお祈り申し上げます

平成十年 元旦



中標津町農業協同組合

代表理事組合長

三友

盛行

副組合長理事

高橋

勝義

管理購買委員長理事

佐々木

政行

営農委員長理事

上村

重光

生産委員長理事

土井上

信一

理事

中浦

健雄

佐藤

哲擴

中司

哲雄

川村

清身

中村

敏夫

長正路

清夫

邊刃

善行

藤井

美智夫

土井上

昭男

代表
 監事

〃 〃 〃 〃 〃

協同の力を 発揮して

中標津町農業協同組合
代表理事組合長 三友 盛行



新年明けましておめでとうござ
います。

新しい年を迎え、組合員の皆さ
んにおかれましては、各々一年の
目標を高く掲げられ、心新にして
お正月をお過ごしのことと存じます。

昨年は春先の天候の不順の中で
作況が心配されましたが、牧草の
収穫時期、秋の好天に恵まれて平
年を上回る豊作といっても良い年
でした。

酪農畜産では、一昨年の粗飼料
の質の低下により、牛乳の伸び悩
みがありました。生産体制の立
ち直りと粗飼料の良質確保により、
昨年後半より牛乳生産量も順調に
伸展しております。

畑作では一昨年の冷害を乗り越
え、馬鈴しょ、ピート共に収量、
収入も回復しました。また平成八
年産の共計でん粉価格の精算も、
畑作経済を大きく支えてくれまし
た。経済環境は決して良くないも
の、総じて農家経済は皆さんの
日頃の努力に支えられて、明るい
気持ちで新年を迎えることが出来
たと思っています。単に景気、経

済状況だけに左右されることにな
い、農業、農家の強さ、良さを改
めて認識をしました。この事は将
来につながる大きな支えであり、
道でもあります。

昨年はバブル経済崩壊の影響を
受け景気低迷、消費税の増税によ
る消費の減退がありました。

また年末にかけて、金融、証券、
建設などの大会社の倒産もあり、
従前では考えられない様な状況で
した。これ等の事は行き先不安材
料であり、農家経済に対してどの
様な影響があるのか心配です。し
かし、一連の経済の流れは、日本
経済をはじめ、各国の経済が本来
の実力通りに戻る大きなうねりの
様にも見えます。売れる物は輸出
し、足りないものは輸入すれば良
いという事で、日本の社会が成立
しないという前兆です。

まず何より大切なものは国内体
制の整備であり、その第一が食料
自給であることに視点をおく必要
に迫られるでしょう。この数年、
農業の将来に見直しが立たないと
いう不安がありました。社会全

体が見直しを求められる時、農業
もまた見直されてゆきます。

その時我々農業者も、今の生産
体制を検証することになります。

地域の特性を生かした良質な生
産物であり、良質を前提にした、
量の拡大が求められます。

農業は気候、風土、土を離れて
生産は出来ません。特に土は全て
の生産の基本です。日本経済が大
ゆれの末、経済の基本に立ち戻る
様に、農業もまた土づくりという
原点に戻る必要があります。

大地より生まれた農産物が再評
価され、農業が再評価される時代
の到来です。

昨年の臨時総会でAコープの移
転新築が決議されました。秋の落
成オープンを目指して協議、進行
しています。経済、社会環境が不
安な時こそ、協同の力を発揮して、
共に明るい方向を目指したいと思
います。関係機関のご支援を仰ぎ
ながら今年一年、邁進致しますの
で宜しくお願い申し上げます。

「共生」の時代に向けて

北海道農業協同組合中央会会長 藤野 貞雄



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年の本道農業は概ね平年作でありましたが、夏場の天候不順により一部の地域におきまして、作物の品質低下が見られましたことは誠に残念であり、被害を受けた方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年は自主流通米価格が異常低落に見舞われ、また社会経済情勢においても日本を代表する企業の破綻が次々に起きるなど、

先行きの不透明感が一層増した年であったと言えます。そのような状況の中で十一月二十五日に第二十二回北海道JA大会を開催し、二十一世紀に向けての三か年を展望し、われわれが取り組むべき方針として、「共生の大地へ北海道」の構築に向けて「組合員・地域の期待と信頼に応えるJA改革の実践」を決議しました。

これからの三年間は地球規模での食料・農業・環境問題が顕在化

してこようとしている中、新たな農業基本法の制定やWTO次期交渉など、日本の農業を左右する大きな局面を迎えています。このような情勢で食料の安定供給やクリーン農業への期待の高まりに、「共生」の考え方を基本に農業・農村に関する国民との合意づくりを進めるとともに、我が国の食料基地としての北海道農業とJAグループの組織経営基盤の改革をすすめることが極めて重要な課題となっております。

JA大会で決議しました「共生の大地へ北海道」の構築」とは、消費者と農業者、都市と農村、農業と他産業、農村地域社会における様々な住民、大規模農家と兼業農家などの多様な農業者が共に生きていく地域社会をめざすという意味であります。これを実践し二十一世紀につなぐ本道農業を確立していくために、JAグループの事業機能を強化するため「組合員・地域の期待と信頼に応えられるJ

A改革の実践」を決議しました。JA改革はJA合併の早期実現を中心として、経営体制の確立、事業機能の強化、人づくりの推進として連合組織の改革に取り組むことであり、JA改革の実践によってJAグループをより基盤の強い組織に構築してまいりたいと決意をする次第であります。

最後になりましたが、本年がJAにとって半世紀の歴史を踏まえた新たな第一歩を踏み出す記念する年にふさわしく、皆様にとって明るい年であり、豊饒の秋を迎えることができそうですよう心からご祈念申し上げます。



農業の価値を確認して

中標津町農業協同組合参事 南出 昭広

明けましておめでとうございま

す。平成十年の新春を、ご家族おそ

ろいでお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。昨年を振り返りますと、金融機関の破綻など日本経済の激動と同様、当農協にとっても、なかしべつフーズの清算という大変な経験をした一年でありました。組合員の皆様の理解と、過去多くの先達の築いた財産により、無事に処理を終えることが出来ましたが、教訓として改めて厳しく心に留めるべきとの思いが致します。さて農業生産では、一時期低温

が続くなど非常に心配されましたが、サイレージ調整時や、馬鈴し

よ、てん菜成長期に好天に恵まれた事と、皆様の努力の結果もあり、収穫量は平年並を確保しました。

生乳生産量については、百二割と伸び悩んでおりますが、でん粉工場では原料馬鈴しよ四十四万九千俵と史上二番目、前年を十一万俵程上回る受入れとなり、てん菜についても平均反収、糖度共前年を上回り、組勘上での農産物収入では、前年比百二二割となりました。しかし、一昨年の冷害を思うと、地球温暖化や南半球でのエルニーニョの発生などにより、世界各地

で異常気象が頻発しており、改めて自然との共生を原点とした生産活動、即ち農業の基本である地方の維持向上に立脚した生産活動こそが、これら影響を最小限にする方策であると考えます。本年の営農にあたって、基本技術、管理の励行と併せ実行して戴きたいと存じます。

農協経営に於いては、乳価、個体販売価格の低下による販売収益の減少、生産資材、給油所収益の減少など、消費税の引上げも含め厳しい部門もありますが、一方、生活店舗、肉牛センターなど計画を上回る部門もあり、総体的には当初計画達成を目指し努力をしております。本年は、昨年臨時総会で承認戴いた新Aコープ店舗をオープンの前倒しであり、皆様に親しまれる店づくりを努めてまいります。また、

でん粉工場再編に関する方向性や、北部四丁JA合併に関する検討、第四次地域農業振興計画について各々検討会を設置し、討議願っておりますが、将来を託す重要な課題であり、慎重かつ徹底的な協議をお願い申し上げます。

は地域により差が見られるものの平均値では二・五割と順調な生産を示しております。(十月現在)このような生産を示す背景には、UR対策による諸事業や生産基盤整備、スーパール資金導入など、積極的な経営展開に負うところが大きいと考えられます。一方、順調



足もとをみつめ 更なる発展を期待して

北根室地区農業改良普及センター所長 井芹 靖彦

新春を迎えて謹んでお慶び申あげます。

平成九年の暖候期における気象は変動の激しいものでありました

が、一番牧草の収穫は天候に恵まれ、三年振りに短期間に収穫する事が出来ました。甜菜、馬鈴しよにおいても九月以降の天気回復により、収穫作業も順調に進み平年を上回ることが出来ました。生乳生産では全道、管内とも伸び悩む中であって、北根室管内で

は地域により差が見られるものの平均値では二・五割と順調な生産を示しております。(十月現在)このような生産を示す背景には、UR対策による諸事業や生産基盤整備、スーパール資金導入など、積極的な経営展開に負うところが大きいと考えられます。一方、順調

にみえる酪農経営においてもいくつかの課題が内包しております。生産収支の関係では、乳量増加に伴う乳代増加率よりも、購入飼料費増加率が上回るなどの傾向が前年に引続きみられます。また、良質草の収穫された今年度においても、高水分サイレージ（水分七五以上）を中心に食い込み量が低下する場面がみられ、これらサイレージの共通点として、アンモニア

態チツソが高率に含まれていることが判明しております。さらに新播草地において、チツソ及びカリ欠と考えられる養分欠乏の発生が広範囲に亘りみられるなど、多くの地域的課題が顕在化しております。経営体にあつては當農成果の点検に努め、わが家に課題があるとなれば何が課題であるかを見極め、行動を開始したいものです。農業を取り巻く環境は刻々と変化

しております。これらの行動を視野に入れた対応が求められております。北海道では四月に「北海道農業・農村振興条例」が制定され、これらを具体化するために「北海道農業・農村振興計画」が十月に答申されております。答申には国際化への対応、農業所得の確保、生産基盤の計画的な整備、担い手の育成強化、環境問題など十一項目の推進策が上げられており、早

期の実施が待たれます。普及センターにおいても個別農業者への支援を始め、共通する課題や行政が推進する政策について関係機関と連携を密にし地域農業・農村振興のために職員一同努力したいと思っております。今年もご支援、ご協力のほどお願い致します。



一人ひとりの自覚と積極性を持った青年部に

中標津町農協青年部部长 山田 昇

新年あけましておめでとうございます。部長に就任して九カ月がたち、未熟ゆえ多々至らない点があります。部員の皆様には日頃より青年部活動に積極的に参加、協力頂きありがとうございます。今年度は、青年部にとって大きな方向転換を迎える時期にきていると思ひます。

部員が減少する中での事業の見直し、その中で特に各委員会のあり方、そして役員定数の問題などあります。また、青年部事業の最

大であるじゃがいも伯爵まつり&ふれあい広場の会場が、将来、移転する事が決まり、その場所が中標津空港の旧滑走路です。いも祭りも新たな時を迎え様としています。さて、昨年の一草収穫時は近年にない晴天に恵まれ、二番草の時は悪天候だったと思ひます。

また、イモ、ビートにおいては半年以上ではなかったと思ひますが、依然として、農業情勢と相まって良い年ではありませんでした。そんな中、今までの事業活動の

中でも最大である、じゃがいも伯爵まつり&ふれあい広場は、曇りがちの天候でしたが、大勢の人達に来てもらい、盛大の内に終る事ができました。お手伝いいただいた部員はもとより、関係機関の人達には大変感謝いたします。

また、今年度からは新しい事業として、環境整備を取り入れ、私達青年部も前向きに考えていかなければならないと思ひます。なぜ、今環境整備が注目されているのか、それはいろいろな意味を含んでいると思ひますが、これからの農業にとつては、かかせない大事なことです。部員一人ひとりが気づいてほしい、更に組合員全体がわかってもらい、認識してほしいと思ひます。

さて、私達青年部も平成十一年度には五十周年を迎える事になり、地域に根ざした青年部として、さらなる発展をしていく事と思ひます。そのためにも、今こそ若い力と情熱を持って盛り上げてもらいたいと思ひます。部員一人ひとりが自覚を持ち、これからの青年部はもちろん、中標津町の基幹産業を背負っていくぐらゐの意気込みと、根性と積極性を持つてほしいと思ひますし、これからの青年部、農業の発展のために頑張りましよう。

最後に新しい年を迎え、皆様方にとつて良い年でありますようご祈念申し上げます、新年の挨拶いたします。



寅年の仲間

大集合

今年の干支は寅、十二支の三番目です。寅年生まれの組合員皆さん百六十四人の中から、一戸に二人以上の寅年生まれの方に登場していただきました。

今年も良い年でありますように
 祈念申し上げます。

- ① 生年月日
- ② 今年の抱負



- 共成地区
- 中林 勇さん
 ① 大正十五年十一月三十日
- 中林幸代さん
 ① 大正十五年九月二日
- 中林文字さん
 ① 昭和二十五年十一月二十六日
- 中林忠雄さん
 ① 昭和二十五年四月八日
- ② (家族を代表して)
 家族の健康と牛の健康



年頭にあたって

中標津町農協女性部部長 横田 純子

皆様あけましておめでとございます。ご家族お揃いで新しい年をお迎えの事と存じ心よりお慶び申し上げます。

昨年もまた、いつもの景気低迷

のほかに金融界の異常というおまけ付きで、いろいろな所に飛び火しています。私達、農家には農畜産物の自由化反対という言葉も遠い昔の言葉の様に思える年でした。

女性部では、五年前より道の方にお願いをして来ましたがJAホームヘルパーの件、やっと念願かないまして、昨年管内で三十二人、当農協でも九人の受講者がありました。

これからの高齢社会に向け資格もさることながら、技術や知識を得る場として数多くの人が受けて頂ければと思います。女性部としては今迄の活動の他に、高齢者介

護などの勉強に力を入れて活動したいと思っています。

今後共、なお一層のご協力、ご支援を頂きながら農村の持つ良き、農業の大切さを前面にそれぞれの「個」を磨いて「今」を輝かしましょう。

皆様のご健康とご活躍をご祈念申し上げます。新年の挨拶と致します。



北中地区

大内佳子さん

① 昭和三十七年十二月二十四日

② 和牛の哺育が始まり忙しくなり

ますが、健康管理に気を配り頑

張ります。

大内勝利さん

① 昭和三十七年八月七日

② ゆとりある経営を目指し、頑張

る



上村重光さん

① 昭和二十五年九月二十日

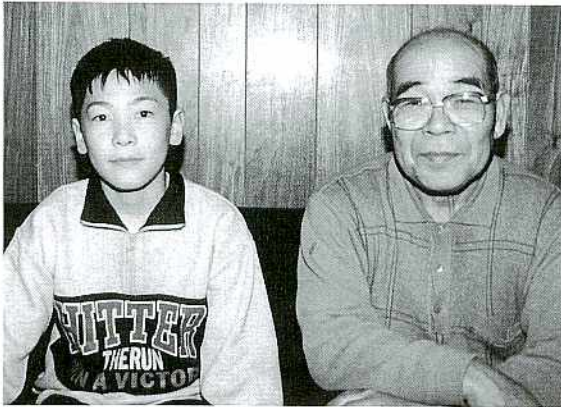
② 健康管理に留意し実り多い年に

俣落地区

上村節子さん

① 昭和二十五年二月二十三日

② 事故、怪我のない健康で明るい
年でありますように



共栄地区

広瀬定夫さん

① 大正十五年九月二十七日

② 家族仲良く家内安全、良い年で

ありますように

広瀬哲也さん

① 昭和六十一年十月二日

② 勉強に力を入れて頑張りたい



北武佐地区

松田むつ子さん

① 昭和四十九年八月四日

② 健康で明るい家族

松田よ志乃さん

① 大正三年十月六日

② みんな仲良く、幸せな年であり
ますように

アメリカ農業を視察して③

今回の視察、研修旅行は、バーモント州、ニューヨーク州の北東部からミネソタ、ウイスconsin州の中北部、カルフォルニア州の太平洋岸と歩きました。

米酪農はガットのウェバー条項に守られて、国内的には安定した形態でしたが、政府による価格支持の低下、輸出振興への積極姿勢などの変化により、近年急速な生産構造、生産地帯の変化がありました。

一九九三年の八月に、伝統的な米酪農の象徴でもあるウイスconsin州が、月間乳量で新興酪農地帯のカルフォルニア州に抜かれてしまいました。

ウイスconsin州は二万六千戸の酪農家であり、カルフォルニア州はわずか二千戸です。この出来事は米酪農の大変化を象徴しています。

東部、中北部の伝統的小規模家族経営と、太平洋岸の大規模企業型経営と大別されますが、形態分別は三つの特徴になります。

- 通常家族経営 六七割、
生産牛九十七頭
- パートナーシップ 二八割
百五十一頭
- 株式会社 五割、三百二頭
現在では、パートナーシップ経営

● 今月のたより……

組合長日誌

代表理事組合長
三友 盛行



営が増加しています。
パートナーシップの特徴は、ボスなしの協業経営で、搾乳、育成部門、機械、飼料作物部門、経営、簿記部門など明確に分別されてお

り、相互干渉は基本的にしないという個人主義が徹底しています。メリットは、○規模拡大がしやすい○所得税が軽減できる○親から子への経営移行が徐々に出来る○休暇が取り易いなどです。経営規模は施設にも特色があり、家族経営ではタワーサイロ、スタンション方式で、大規模型はバンガーナF、M方式でした。

飼養作物はコーンとアルファルファが基本で、自給するか他給に頼るかの違いです。どの経営も搾乳牛一頭当りの平均乳量は一萬酪であり、専門家により栄養管理が徹底されています。大規模経営の方が牛の状態はすぐれていました。また、一萬酪牛群は決して穀物多給でなく、良質なアルファルファの乾草を十分に食いつまわせていました。米国では流通移動するのは穀物の配合飼料ではなく、乾草の購入移動しかありませんでした。故に第四胃変位などの生産病の多発もなく、日本の酪農場とは違っています。

牧場視察は百頭搾乳の百五十頭飼養、六百頭の千二百頭、千頭搾乳の二千六百頭飼養と、家族経営、

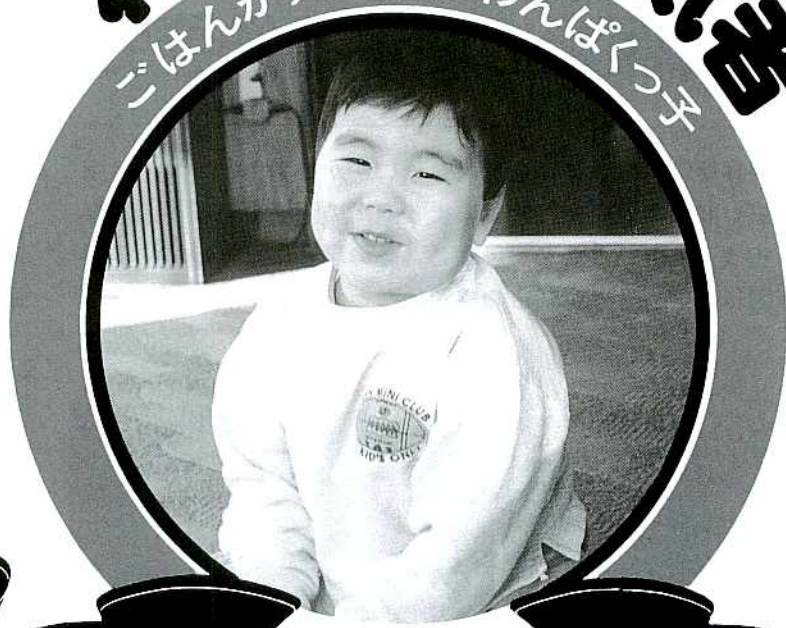


パートナーシップ、企業型と三方所でした。いずれの牧場も精一杯の努力をしながらの経営でしたが、厳しい生き残りを強いられていました。企業型では七五割が赤字であり、パートナー型では周辺酪農家の酪農に心を痛めており、家族型ではこれからの進路への決断を迫られていました。

競争社会の酪農とはいえ、米国の農村の荒廃は確実に進行しており、何よりも農村の風景のわびしさを車窓から見るにつけ、北海道酪農の行く末を思うのでした。

わが家の人気者

ごはんが大好きなわんぱくっ子



豊岡地区 武田健治・登志子さんご夫妻
次男 冬馬くん(3歳)

あけましておめでとうござい
す。今年も「わが家の人気者」ど
んどんご紹介していきますので、
取材の際は協力お願いいたします。

今年、最初にご紹介するのは、
武田健治さん宅の元氣三兄弟の末
っ子、冬馬くん。

兄弟の中でも一番度胸が良く、

きかないといいますが、「目に涙
をためてでも、お兄ちゃん、お姉
ちゃんにかかっていくよ」なんて
いう、お父さんの言葉からもわん

ぱくぶりがうかがえます。

また、物おじしない所も、冬馬く
んのキャラクター。人に名前を聞
かれると「オレは武田冬馬だっ」
なんて答えてしまうそうで、今か
ら大物ぶりを発揮しているよう
です。

大好物は、ふりかけごはん、
嫌いなものは、味のついていない
ごはん？というほど、ほとんど好
ききらいなしの良いい子。大人が普
通に食べる量をペロリとたいらげ
るそうで、体格を見てもわかるよ
うに（ごめんなさい）モリモリ成

長している冬馬くんなのです。

そんな元気っ子も、以外にも動
物は苦手、牛のいる牛舎にはコ
ワくて行けないという面もあると
いうからカワイイですね。

最近、字も少しずつ読めるよ
うになり、家族全員がその成長ぶ
りを毎日楽しみにしているよう
です。

名前の通り、一月生まれの冬馬
くんは、寒さにも負けない元気っ
子。

これからもたくさんいたずらし
て、たくさん大きくなってね。



やんちゃっ子だけど甘えん坊な面もあるので

家畜糞尿処理など 環境保全に関する勉強会



酪農経営において家畜糞尿処理にかかる労力、コストは頭の痛い問題です。また糞尿による河川の汚染や漁業への影響も指摘されているなか、農業と漁業の調和により地域の発展を図っていくことが緊急の課題になっています。

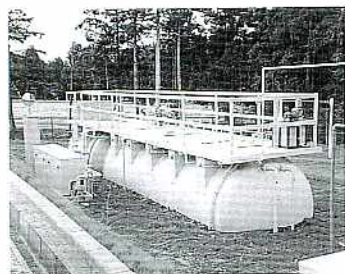


家畜糞尿処理など環境保全に関する勉強会が十一月二十八日、農協大会議室で開催され、酪農経営者、根室支庁、町役場、農協、農機具メーカーなどの関係者約七十人が参加しました。環境問題の専門家である榊原製作所の鈴木部長、栗原部長に微生物を利用して糞尿を浄化するしくみや、メタン

ガスや焼却熱を利用して、エネルギーと回収するシステムについて講演してもらい、ついで糞尿処理がかかえる現状の問題点について、熱心なディスカッションが行なわれました。

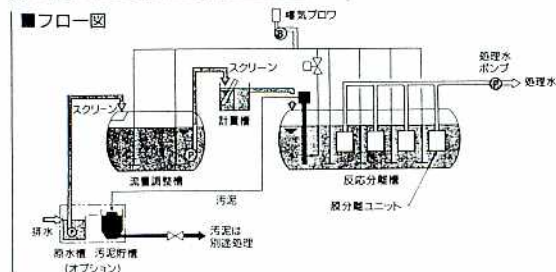
各農場毎に糞尿処理を行なう場合、コストや維持管理に労力がかかること、一方、集約して処理する場合は、コストや維持管理でメリットがあるが、糞尿の集約方法など解決しなければならぬ問題があることなどが話し合われました。北海道の豊かな自然環境を守っていくことは、酪農をはじめ私達農業関係者に託された使命です。

膜分離式活性汚泥処理装置 PW-Wシステム



■用途
有機性排水の処理
原水BOD < 4000mg/l

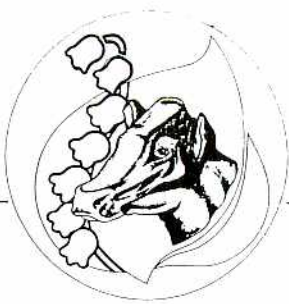
■対象事業場
食品加工等、排水量50m³/d以下の有機性排水を排出する小規模事業場



■特長

- ・沈殿池がなく、生物管理が簡便
- ・膜を透過した処理水は清澄で雑用として再利用可能

今後とも支庁、町をはじめ関係者のご支援をいただきながら、一刻も早い糞尿処理問題の解決に努力していきたいと思っております。



将来目標をはっきりさせ 一歩一歩確実な改良を

昨年はエアロスター
マスコットについて述
べてきました。

カナダにおいては、
現在でもエアロスター
の息子達が人気、実績
共に上位を占めていま
す。(ストーム、ルド
ルフ、メガバックなど)

しかし、エアロスタ
ーに続く後継牛が、ま
だはつきりとせず来
年の動向が注目され
ます。

アメリカにお
いては、後半よ
りマスコットが
人気となってい
ます。(アメリ
カTPI第一位
のイーストビ
ューインフル

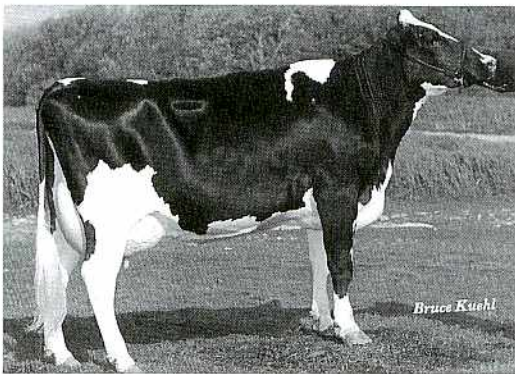
エンス マティ Gなど) 蛋白量
が高く、また乳器が良い特徴(能
力的に)がありますが、肢蹄にお
いて多少欠点がみられるので、掛
け合わせについて注意が必要だ
と思われま

日本の種雄牛の状況としては、
昨年はリードマン サウスウイン
ドが主流で、昨年後半よりマス
コットが開始しています。マス
コットは、日本でも能力面におい
ては良い成績がでていますが、や
はり体型面において注意が必要

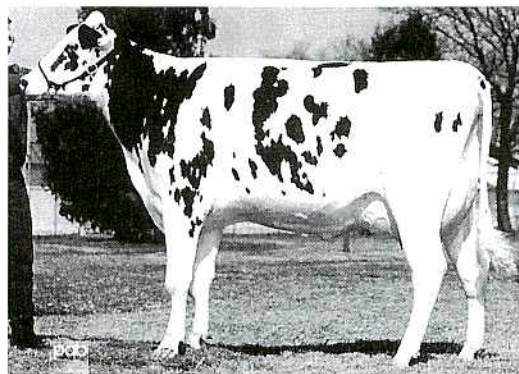
今年も状況は変わりそうにない
ので、同じ血液の流れの場合、
一つ上のランクの種雄牛を使用
していくのが改良の早道と思われ
ます。また、輸入精液も必要(環
境、フリーストールへの移行など)
に
応じ、牛群に取り入れていくの
必要と思われま

より良い牛を得るため、また、

販売するため、一つひとつ改良を
進めていきたいと思います。



娘：ナガウイッカ デイリー マティーG



娘：マルガ ルドルフ マティ(NC)



イタゾン セルシマス TL

母牛
ウエアランド ベル エラ
母の父
カーリンエム アイバンホー
ベル BL

※イタゾン セルシマスについて
先日、オランダの種雄牛(セル
シマス)について、同月齢牛群に
おける発育、体型について調査を
しました(七、九カ月齢で)。
セルシマスは他の牛と比べ大差
がない(五、七cm小さい)。
しかし肢蹄は良く、また、蹄も
厚い。
フルーストールには合うタイプ
ではないかと思われる。

第四十六回全道JA青年部大会が十二月四日、五日「未来につなげよう食と農」二十一世紀は我らの時代だ」という大会テーマで、札幌市グリーンホテル札幌を会場に開催されました。

全道各地から約六百人の盟友のほか、フレッシュミセスの人達も参加しました。

根室管内からは三十人、JA中標津からは六人参加しました。開会に当り、JA北海道青年部協議会会長・秋永徹氏が「地域を発展させるためには、盟友自ら考え取り組むと同時に、農村には明るい

活力ある北海道農業 魅力ある家庭づくり を考える

JA中標津青年部部長 山田 昇

パートナーやさまざまな団体、各界と一緒に考え支援してもらおうのも大事な事。今大会に参加してもらったフレッシュミセスと共に、活力ある北海道農業、魅力ある家庭づくりを考えていただきたい」とあいさつされました。続いて来賓のあいさつがあり祝辞をいただき、その後、記念講演が行なわれました。

講演には、知恵工房（小野寺戦略経済研修所）小野寺義幸氏が「農畜産物総自由化後の北海道農業を考える」二十一世紀に生き残れるか、生き残ってみせられるかと題して講演が行なわれました。

講演の内容については、とても文章に書く事のできない、今までの農業情勢の裏話を聞く事ができました。その後、分科会があり四つの分科会に分かれ、私達六人は酪農、畜産に出席しました。

分科会の内容は、やはり自由化後の農業情勢でした。どの様にしたら生き残れるか活発な意見交換でした。翌日は、JA青年部の主張発表大会が行なわれ、六人の盟友が発表し、それが終ると青年部活

動実績発表大会が行なわれ、根室管内からの代表は、JA中春別青年部の南川勉氏「消費者ニーズに応えPR活動を…」と題して発表



され、全道各地の盟友のいろいろな事業を知る事ができました。

今回六人という人数で行きましたが、とても意味のある大会だったと私は感じています。また、今回の様な大会には、一人でも多く参加してもらいたいと思います。



理事会

の経過

第九回理事会

開催日時 平成九年十二月三日

開催場所 中標津町農協中会議室

〈決議事項〉

- 一、平成九年度九月末定例自治監査の指摘事項について
- 二、平成八年産共計でん粉の精算について
- 三、でん粉工場の操業実績と平成九年度共計でん粉の融資単価と利率について
- 四、畜産販売課車輛のリース契約について
- 五、いきいき土づくり事業の実施について
- 六、各種資金の借入申込について
- 七、債務保証委託申込に伴う出資増口について

〈協議事項〉

- 一、平成九年度営農計画中間協議について
- 二、地区別懇談会の議題と日程について

三、役員定数について

四、次世代農業者支援融資事業(リフレッシュ対策)実施要領について

五、北海道指導農業者の推薦について

六、ホクレン所有地の取得について

〈報告事項〉

一、平成八年度生乳出荷基礎目標数量譲渡に係る所得税修正申告について

二、生乳生産状況について

三、乳質改善夏期対策の実施について

四、道内米消費拡大について

五、でん粉消費拡大に伴うカマボコのとりまとめについて

六、平成九年度酪農強化対策費の返戻について

七、平成九年度生乳生産安定化対策事業費の一部返戻について

八、平成九年度酪農経営体育成強化事業の実施結果について

九、平成九年度でん菜生産実績について

十、宇都宮賞表彰候補者の推薦について

十一、年末年始の業務日程について

土づくり勉強会

土壤分析結果からみた
中標津町の畑作土壤管理対策



十二月十七日、土づくり勉強会が保養所温泉で四十一人の出席の中開催されました。午前中は、「土壌分析結果からみた中標津町の畑作土壤管理対策について」と題して、普及センターの鈴木主査による講演で、中標津町の土壌の特徴から、PHがやや低く、少ない石灰量で効果をあげる作条施用の検

討、りん酸吸収系数が高く、施用効率が低い土壌が多く、作条施用量を増すなどの対策が効果的で、堆肥の活用によるバランスのとれた施肥が必要と強調されました。午後からは「土壌メカニズムと肥料の関係について」と題して、道北肥料の前川和夫氏による講演で、堆肥と重過石施用の前処理により肥料(アニマックへ商品名)の追肥管理で、高収量を上げている例なども含めて話され、馬鈴しょ、ビートの生産に大きな期待が寄せられました。





話しがはずむ反省会

フ オ ト ア ル ズ ム

農協青年部反省会

農協青年部反省会が12月12日、寿宴を会場に35人が参加し開催されました。

開会に先立ち、山田昇青年部部長の挨拶と乾杯で始まり、部員減少の中、一年を振り返り事業の反省と次年に向けて抱負が各テーブルごと話し合われました。その後、参加者全員でビンゴゲームや、タービーゲームなどで楽しみ、交流を深めました。



山田部長の挨拶

飲んで歌って楽しみました 開陽酪対カラオケ大会

開陽酪対カラオケ大会が12月6日、約30人が参加し開陽館で開催されました。

当日は、女性の参加が少なくチヨッピリ寂しい大会となりましたが、一人ひとり自慢の喉とパフォーマンスを披露し、大いに盛り上がり楽しいひとときを過ごしました。



楽しいひとときを過ごしたカラオケ大会





今回習ったお花です

お正月の生け花に チャレンジ 女性部華道教室

12月17日と27日に、女性部華道教室が開催されました。毎年恒例のこの活動ですが、今年も、東池坊の大河内ヨリ子先生を講師に招き、参加者約20人が集まりました。今回は、2回の教室で、お正月用の生け花にチャレンジ。なかなか難しいとの声も聞こえましたが、先生のやさしい指導で、約2時間ゆつくりと花を生けました。

参加の皆さんは真剣に取り組み静かな時間を過ごし、立派な生け花を完成させていました。



大河内先生のやさしい指導で行なわれました

楽しく働き、夢のある 生活を… 北根室地区農村女性講座



ケチャップとピクルスをつくりました



高岡氏の講演の様子

12月5日に雪印で、第23回北根室地区農村女性講座が開催されました。標津、計根別、中標津の農村女性を対象としたこの講座に、今年は約30人が参加。

午前にはトマトケチャップやピクルスなどの保存食の調理教室が開かれ、午後からは、「楽しく働き、夢のある生活を」と題した講演会が、卯原内酪農生産組合組合長の高岡勉氏を招き開かれました。「農村の良い所を自覚し、アイデアを生かした農業を…」などのお話を聞き、一日を過ごしました。



12月の 組合日誌

- 1日 第8回生産委員会
- 3日 第9回理事会
- 4日 地区別懇談会(武佐・俵橋)
- 5日 地区別懇談会(俣落・第二俣落開陽)
- 6日 地区別懇談会(中標津・当幌)
- 8日 店舗建設委員会
- 〃 青年部役員会
- 10日 馬鈴しょ耕作者全体会議
- 〃 馬鈴しょ振興会役員会
- 〃 酪農実習生交流会
- 12日 てん菜振興会役員会
- 13日 乳牛改良同志会役員会
- 15日 4 J A 合併検討常任委員会
- 17日 女性部華道教室
- 22日 第12回役員協議会
- 〃 中標津地区馬事同志会役員会
- 24日 平成10年度職員採用試験
- 26日 第10回理事会
- 27日 女性部華道教室
- 30日 仕事納め

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

組合員皆様におかれましては、新春をご家族お揃いでお過ごしのことと思います。

一年のたつのは早いもので、アツという間に過ぎ去った思いがします。

昨年は天候に恵まれ、一番草の収穫も順調に進み、馬鈴しょの収穫も9、10月の好天に恵まれ前年を上廻る結果となりました。

新年を迎え、今年も天候に恵まれ、素晴らしい一年でありますようお願い申し上げます。

「酪農景観ニューデザイン推進事業」 フォーラム開催要領(支庁がつくる政策推進事業)

【1】趣 旨

管内の酪農家、関係団体、住民、市町職員などを対象に「酪農景観」に関する講演を通して意識啓発を行ない、地域特有の魅力づくり、地域連携による景観形成・まちづくり、観光振興など地域の特性を生かしたまちづくりに反映させていくためのフォーラムを開催する。

【2】主 催

北海道根室支庁

【3】開催日時

平成10年1月21日(水) 13:00~16:00

【4】会 場

中標津町総合文化会館 コミュニティホール(1F)

【5】フォーラム名称

「'98フォーラムくねむろのヒューマン・ランドスケープ
(~これからの酪農景観を考える~)」

【6】参加対象者

管内の酪農家、関係団体、住民、管内市町職員など
200人程度

【7】講師及びパネリスト予定者

(1)酪農経営と環境問題に関する講師

標茶町農業協同組合長 小泉恒男氏

(2)コーディネーター

(有)中井仁実建築研究所 取締役環境デザイン室長
中井和子氏(北海道景観アドバイザー)

(3)農村地域づくり活動の実践者

アグリサポート釧路21 榊田健治氏・福岡功和氏

(4)根室支庁生活改良普及員(女性)

南根室農改センター主査・榎田美穂子氏

(5)酪農家代表(男2人女1人)

奥山秀助氏(別海町)

横田純子氏(中標津町)

岩倉保夫氏(標津町)

【8】プログラム

1 基調講演

2 プレゼンテーション

3 休憩

4 パネルディスカッション

(1)生産環境の現状(酪農家代表、普及センター)

(2)農村地域づくり(酪農家、ボランティア活動家、センター)

【9】アンケート調査

会場入場時にアンケート調査票を配布し、終了後回収する